

授業科目 NO. 610 看護実践力探求

Exploration of Nursing Practice

授 業 の 形 態 : 講義

単位数 (時間数): 1 単位 (15 時間)

開講年次・学期: 4 年次・前期

必修・選択の別: 必修

キ ー ワ ー ド : 看護実践力、多様な看護の場、看護師の資質、多職種協働

1 金沢医科大学看護学部への到達目標 (全科目共通です)

- ① 豊かな人間性と倫理観
- ② 看護学の知識と技術、及び実践力
- ③ 地域志向を視野に入れた専門性の獲得
- ④ 生涯学習能力
- ⑤ 国際的視野の獲得

2 学 習 目 標

1) 一般目標 (GIO)

多様な看護の対象に、多様な看護の場で、また多職種と協働して看護を実践する能力の修得のために、これまで学習した知識・技術・態度を統合して振り返ることで、統合看護学実習で取り組みたい自己の看護実践課題を導き出す。また、自己の看護実践課題の解決を目指し、統合看護学実習の実習計画を立案し、実施に向けて実習施設への依頼・交渉、調整を行うこと、看護専門職として主体的に学習・行動できる自己管理能力を修得する。

2) 行動目標 (SBO) ※カッコ内の数字は上記の金沢医科大学看護学部への到達目標との関連を示す。

- (1) これまで学習した知識・技術・態度を統合し、多様な看護の対象に、多様な看護の場で、また、多職種と協働して看護を実践する能力の修得に向けて、統合看護学実習で取り組みたい自己の看護実践課題を列挙し、説明できる。(①②③)
- (2) (1) で列挙した課題を取り巻く看護や医療の現状とその背景について説明できる。(③)
- (3) (1) で列挙した課題を解決に導くために必要な知識・技術、求められる看護師の資質を説明できる。(①②)
- (4) (1) ～ (3) のプレゼンテーションならびにグループ間でのディスカッションを通して、統合看護学実習にて取り組みたい実習計画 (実習内容・方法) を、教員からの助言をもとに立案できる。(②③④)
- (5) 立案した実習計画を実行するために適した看護の場を選定し、学習内容・方法の実行可能性等について自ら実習施設に依頼・交渉し、得られた情報を基に、実習計画を再検討・調整できる。(④)

3 学 習 内 容

授業の内容については、授業計画に示す。

4 評 価

評価項目	評価割合
レポート	%
プレゼンテーション	%
その他	%
合計	100%

(特記事項) レポート、プレゼンテーション等を合わせて 100%とする。

各評価項目の割合は、担当教員によって異なるため、授業開始時に提示する。

定期試験は行わない。

5 教 育 担 当 者

科目責任者：【平松知子】

基礎看護学	責任者	教授	松井 希代子
精神看護学	責任者	教授	長山 豊
成人看護学	責任者	教授	村角 直子
老年看護学	責任者	教授	平松 知子
母性看護学	責任者	教授	神崎 光子
小児看護学	責任者	教授	吉川 由希子
在宅看護学	責任者	教授	前田 修子

教 授	松井 希代子 (基礎看護学)	准 教 授	蘭 直美 (在宅看護学)
教 授	長山 豊 (精神看護学)	講 師	新井 里美 (基礎看護学)
教 授	村角 直子 (成人看護学)	講 師	宮崎 彩乃 (基礎看護学)
教 授	清水 玲子 (成人看護学)	講 師	釜谷 友紀 (基礎看護学)
教 授	平松 知子 (老年看護学)	講 師	金松 瑞代 (成人看護学)
教 授	神崎 光子 (母性看護学)	嘱託講師	直井 千津子 (老年看護学)
教 授	吉川 由希子 (小児看護学)	助 教	白藤 友紀 (基礎看護学)
教 授	前田 修子 (在宅看護学)	助 教	山口 千夏 (精神看護学)
准 教 授	宮永 葵子 (基礎看護学)	助 教	大嶋 舞香 (母性看護学)
准 教 授	大江 真人 (精神看護学)	助 教	小村 未来 (小児看護学)
准 教 授	北村 佳子 (成人看護学)	助 教	横山 裕介 (小児看護学)
准 教 授	浅野 きみ (成人看護学)	助 教	伊藤 真夕 (在宅看護学)
准 教 授	橋本 智江 (老年看護学)	助 教	清嶋 茜 (在宅看護学)
准 教 授	中道 淳子 (老年看護学)	助 手	寺口 由紀 (精神看護学)
准 教 授	山崎 智里 (母性看護学)		

6 教育担当者の実務経験

担当教員は、看護師としての実務経験を有している。

7 教科書

これまでの教科書等すべて

8 推薦参考書

担当する教員から紹介されたものを参考にする。また、各自のプレゼンテーションテーマに合わせて、図書館・インターネットの文献検索等で積極的に情報を検索し調べる。

9 準備学修に必要な時間又は具体的な学修内容

授業 1 コマにつき、事前学習・事後学習として計 180 分程度必要である。

配置された科目群や統合看護学実習での実習施設によって、進め方や開講日時が変更になる場合がある。担当教員との調整を密に行い、主体的に事前学習と事後学習を行う。

10 課題（試験やレポート等）に関するフィードバック

プレゼンテーションやレポートに関するフィードバックは、担当教員から実施する。

11 履修上の注意事項

- 1) 実習施設との調整上、時間割変更が予測されるため、開講日時・場所の確認など、担当教員との調整を密にとる。
- 2) プレゼンテーションは、資料作成や発表準備などを各自で責任をもって行う。他者の発表では、ディスカッションに参加できるように各自準備して臨む。
- 3) 統合看護学実習の実習施設に出向く場合は、打ち合わせ日時、所要時間など、責任をもって調整し、効率的に実施する。

12 オフィスアワー等

事前に担当教員に e-mail など都合を確認して相談すること。

第4学年

看護実践力探求

学期	回数	開講日	時限	区分	講義・実習内容	レポート/小テスト等	講座・科目群名	教員名
前	1	4月7日(火)	4	演習	看護実践におけるリフレクションと統合看護学実習で取り組みたい自己の看護実践課題の抽出	レポート、プレゼンテーション、ディスカッション	基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	2	4月7日(火)	5	演習	自己課題に関する看護や医療の現状とその背景の整理、自己課題を解決に導くために必要な知識・技術、求められる看護師の資質	レポート、プレゼンテーション、ディスカッション	基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	3	4月14日(火)	4	演習	つづき	レポート、プレゼンテーション、ディスカッション	基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	4	4月14日(火)	5	演習	自己の看護実践の課題を解決するための実習計画(実習内容と方法)の立案・検討		基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	5	4月21日(火)	4	演習	看護実践課題実行に向けて選定した看護の場への依頼と情報収集、依頼文作成	フィールドワーク、レポート	基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	6	4月21日(火)	5	演習	看護実践課題実行に向けての選定した看護の場との調整(フィールドワーク)、実習計画の再検討・調整	フィールドワーク、レポート	基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	7	4月28日(火)	4	演習	つづき		基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり
前	8(0.5)	4月28日(火)	5	演習	つづき		基礎看護学,精神看護学,成人看護学,老年看護学,母性看護学,小児看護学,在宅看護学	別紙教育担当者一覧のとおり